

子どもが活動内容を決める



お好み体育朝会

子どもが自らの思いを生かして、日常的に運動に親しむ態度を育てるため、体育朝会で自ら運動を選択して取り組むという試みです。体育朝会は運動の方法を紹介し、全校で体力の維持向上を図るねらいから、一斉的な内容になってしまいがちです。もちろんそういう取り組みも必要ですが、ある程度、運動の仕方を子どもが知っていれば、いくつかの場合の中から自分で選択し、そこで行う運動の方法を自分で決定していく取り組みによって、さらに主体的に運動にかかわっていくことが期待できます。子どもに人数と場所のバランスなど、学校の事情によっては、計画に工夫が必要です。

ポイント!

ここが



子どもが選ぶ

学校のもつ条件によって、運動の内容をいくつか子どもに示し、子どもが活動場所を選ぶ。

- 条件:場の設定(使用できる場・遊具・器具・用具)
子どもの運動経験
担当する教師の数

《運動内容の例》

- ジョギング(校庭外周コース)
- なわとび・大縄跳び
- リズムダンス
- バスケットボール(フリースロー大会)
- サッカー(PK大会)
- 伝承遊び(かごめ、はないちもんめ、Sケン)
- ボール遊び(ドッジボール、ボール送り)
- かけっこ(折り返しリレー)
- 用具を使った運動遊び(輪投げ、バトミントン、キャッチボール、ゴム段、一輪車、竹馬)
- ニュースポーツ(ユニホック、ティーボール)

以上の例を参考に、学校の条件にあったものを教師が選択し、子どもに提示する。
事前に子どもの希望を調査し、大まかな人数を把握する。

子どもが決める

選択した場所では、子どもが自分で活動方法を決める(または選ぶ)。

《活動の例》

- ジョギング
ペアやグループで走る リレーをする
- なわとび・大縄跳び
◆1人で連続跳び ◆2人で競争 ◆2人で合わせて
◆大縄8の字跳び ◆みんなでジャンプ ◆ダブルタッチ
- バスケットボール
◆投げる位置、ボールの数を決める
- サッカー
◆キッカーまたはキーパー ◆ける位置を決める

※個人で運動する種目では…
2人での競争や、最高記録の掲示など、挑戦への意欲がもてるようにする。
また、新しい動きや楽しみ方の工夫・開発を取り上げて紹介し、運動を発展させるようにする。

※チームやグループで運動する種目では…
ミニトーナメントを計画したり、チャンピオンチームを設定したりして、子ども同士で対戦を進められるようにする。

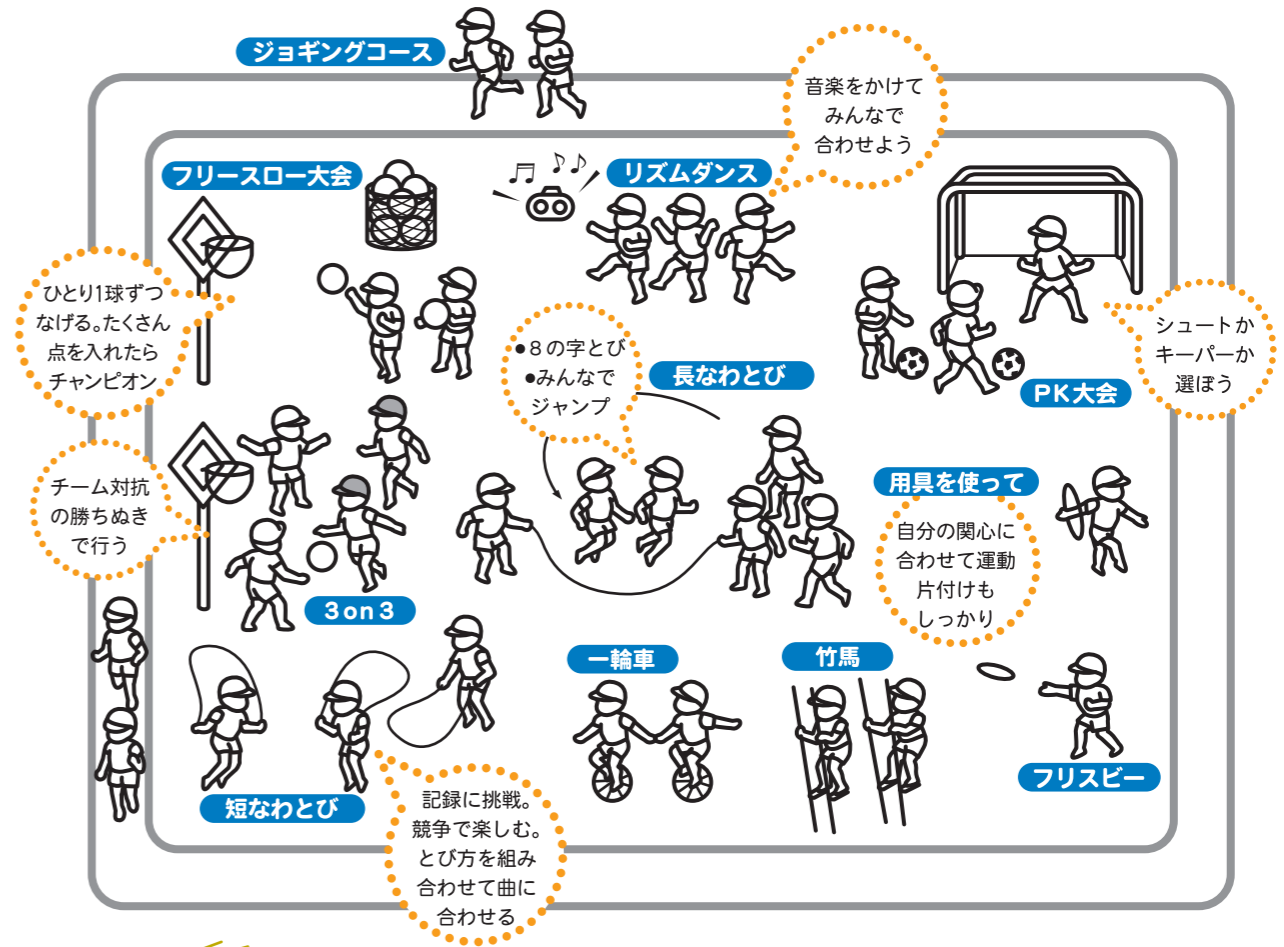
年間計画に位置づける

《A小学校の例》

原則として毎月1~2回の体育朝会、毎週金曜日に
体育朝会・音楽朝会・児童集会

回	月	内容	ねらい	回	月	内容	ねらい
1	4	ボール送り	学級の協力 集団行動の仕方	8	10	短なわとび	自分の力や関心に応じて挑戦
2	5	リズムダンス	リズムに乗って楽しく踊る	9	10	長なわとび	学級で協力して挑戦
3	5	運動会練習	運動会全体練習として	10	11	お好み体育朝会	自分で運動を選び楽しむ
4	6	伝承遊び	学級内のグループで楽しむ	11	12	ジョギング	自分のめあてをもって走る
5	6	プール開き	水泳学習への意欲付け	12	1	ジョギング	めあての達成を振り返る
6	7	ラジオ体操	夏期休業中の活動への動機付け	13	2	お好み体育朝会	自分で活動を決めて楽しむ
7	9	プール納め	水泳学習のまとめと振り返り	14	3	お好み体育朝会	活動の仕方を工夫して楽しむ

活動の実態



さらに活動を広げるために

《運動の日常化を図る》

- 「掲示コーナー」を活用したり、活動場所付近にミニ掲示板を設けたりして、運動の紹介や目標記録等を示す。
- ボールや縄、一輪車等の用具を準備して常に子どもが使えるようにしておく。
- 運動のカード(縄跳びカード等)を用意して、子どもの関心に応じて活用できるようにする。

《運動の質を高める》

- 「〇〇小ギネス」のような記録をつくり、目標や励みとする。
- 運動のポイントや子どもが気づいたコツや感想等を掲示して、お互いに学び合える環境作りをする。

《地域の大人にも参加してもらう》

- 保護者や地域で運動している人に協力を依頼して子どもとともに運動に親しんでいただく。